

患者氏名：

経過 (日付)	入院日 (手術前日) 月 日	手術当日		手術翌日 月 日	手術後2日目 月 日	手術後3~6日目 月 日	手術後7~9日目 月 日	手術後10~13日目 月 日	手術後14~17日目 月 日	【退院予定日】 月 日	退院後 初回受診
		手術前	手術後								
到達目標	①手術の準備(必要書類の提出、必要物品の準備、手術用下着セット)ができる。 ②手術について理解ができる。 ③リハビリの開始ができる。	①絶飲食の時間を守ることができる。 ②手術までに家族が病室待機できる。	①安静時間や絶飲食を守ることができる。 ②痛いときに我慢せず看護師に伝えることができる。	①食事を3割以上食べることができる。 ②痛みに合わせて床上リハビリができ、ベッドの上で座ることができる。 ③ドレーン抜去ができる。	①関節可動域訓練が開始できる。 ②ドレーン抜去ができる。	①センターリハビリが開始できる。 ②車椅子乗車ができる。	①歩行器歩行ができる。 ②採血の結果に問題がない。	①杖歩行が開始でき、自立歩行できる。 ②退院の目途がつけられる。	①手術後感染がない。 ②体温が平熱になる。 ③採血の結果に問題がない。 ④創部に問題がなく、シャワー浴・入浴が行える。		
治療・処置		【手術前に行くこと】 ・点滴があります。 ・内服薬のある方は指示に従う。 ・手術着・フリーパンツに着替え 手術室へはストレッチャーで行きます。	点滴があります。 酸素マスクをつけます。 創部に排液用のドレーンが入っていますので、挿入部を触ったり引っ張ったりしないで下さい。 痛みは我慢せずお声掛けください。	点滴があります。 主治医にて排液用ドレーンが抜去されます。術後2日目となることもあります。 	医師の指示により、持続点滴や抗生剤の点滴を行う場合がありますが、毎回5割以上の食事摂取が確認できれば持続点滴は終了になります。 抗生剤の点滴は、採血結果に応じて医師の指示にて実施します。				創部に異常がなければ術後14日目に主治医が創部に貼っているテープを剥がし、創部の観察を行います。		☆☆退院日後の退院後日初回までに異常を感じましたら受診日を持たずに受診してください。
検査	必要時、主治医より検査の指示が出る場合があります。			貧血や感染徴候などの確認のため、早朝に採血があります。	貧血や感染徴候などの確認のため採血があります。(3日目・7日目・10日目・14日目) ( / ) ( / ) ( / ) ( / ) 14日目にレントゲン検査があります。						
安静	制限はありません。病棟外に出るときは看護師に相談して下さい。	制限はありませんが、病室内で待機して下さい。	ベッドアップはせず臥床して過ごして下さい。頭を上げると全身麻酔の副作用が生じることがあります。  身体の向きを換えることはできますが、排液用ドレーンや尿管カテーテルなどが入っているため、看護師に相談して下さい。	排液用ドレーンが入っている間はベッド上で過ごします。 ベッドアップは可能ですが、ドレーンや痛み止めのブロック注射が抜けないように注意して下さい。	安静の制限はありません。リハビリの進行状況に合わせて離床を行っていきます。  ベッドに座ったり、足を垂らして座ることから始めます。  看護師の介助・見守りの下での移動になりますので、移動の際には看護師にお知らせください。 歩行時は必ず運動靴(踵を覆うタイプの履物)を履いて下さい。 						
食事	夕食までは食事を準備しています。それ以降の食事・水分摂取については麻酔科医師の指示が出るので指示に従っていただきます。	水分摂取は指示された時間まで可能です。絶飲食中でも、喉が渇いた時にはうがいをしてもらいません。	水分摂取は指示があるまで禁止。食事は、絶食で翌朝まで食べることができません。 	朝食から食事再開(吐き気を感じた場合は、看護師にお知らせ下さい)  安静のため下膳は支援します。	並食が出ている方は制限はありませんが、並食以外の治療食が出ている方は間食などに制限が必要な場合がありますので看護師にお尋ね下さい。 安静のため下膳は支援します。						
排泄	病棟もしくは病室のトイレをご利用ください。 手術時間に合わせて浣腸を行います	手術に出棟する前にトイレをすませて下さい。	尿管が入っています。 排便はテープ式おむつ・便器を使用してベッド上で行なうようになります。		リハビリの実施状況や希望を踏まえて尿管を抜きます。尿管が抜けたら、トイレまたは尿器を使用していただきます。 担当治療士からの許可が得るまでは、移動は看護師の介助・見守りになります。移動の際には看護師にお知らせ下さい。						
清潔	シャワーに入ってください。マニキュアをつけている方は落として下さい。	手術室入り口で専用の帽子をかぶっていただきます。義歯や装飾品(指輪、コンタクト、メガネ、ヘアピン)などすべてお部屋ではずしていきます。	必要があれば、看護師が洗面やうがいをお手伝いします。	看護師が着替えや体を拭くお手伝いをします。 	体拭き、洗髪を相談して実施していきます。 尿管が入っている間は陰部洗浄を実施します。			リハビリ・創の状態に合わせてシャワー・お風呂に入ってください。 			
リハビリ	リハビリから指導されている床上リハビリをご自身でも実施して下さい。	術前に指導していた床上リハビリを出来る範囲で実施して下さい。	術前に指導していた床上リハビリを出来る範囲で実施して下さい。	術前に指導していた床上リハビリを出来る範囲で実施して下さい。	ドレーンを抜いた翌日から、膝の関節可動域訓練のためにベッド上で運動(CPM)を開始します。担当療法士がリハビリを行います。 疼痛・リハビリの進行状況に合わせて歩行練習が開始になります。使用している歩行補助具の種類が変更になる毎に、担当療法士からの許可があるまでは1人での歩行をしないようにして下さい。				退院後もリハビリは継続して下さい。		
説明	担当看護師が、今後の入院生活について説明します。  手術の準備物品について、看護師がご説明いたします。  術後の経過によって、リハビリを目的とした転院が必要になる場合があるため、担当看護師が説明させていただきます。  【手術を受けられる患者さんのご家族の方へ】の説明	【手術を受けられる患者さんのご家族の方へ】参照  分からないことは看護師にお尋ねください。	手術終了後ご家族の方には、主治医から手術結果の説明があります。ご本人には、麻酔が覚めてから病室または手術室内で説明を行います。(翌日の場合もあります)また、手術終了時にご家族が不在の場合は、説明が後日になる事があります。 	病状や治療に関する説明は、必要時に主治医が行ないます。  【術後合併症への注意】 ★創感染(傷に直接触れたり絆創膏をはがしたりしないでください) ★疼痛(痛みが強いときは我慢せずに教えてください) ★神経麻痺(しびれや麻痺があれば教えてください) ★肺塞栓・深部静脈血栓症(足首の運動をしましょう。水分を多く取りましょう) ★転倒(許可が出るまで看護師と一緒に歩きます) ★循環動態変動(身体に異常を感じた場合や気分が優れない時はすぐに知らせてください)	●術後10日目ころから、退院に向けた支援を本人やご家族と相談させてください。看護師・リハビリ療法士と検討させていただきますが、場合によってはMSW(医療相談スタッフ)とも検討させていただきます。 症状に合わせて一緒に今後を考えましょう。  予定日時: 月 日( )時~			主治医が記載した「退院療養計画書」に沿って、看護師が次回受診や退院後の生活に関する注意点を説明します。 			

※今回の入院につきまして現時点での診療計画は以上の通りです。なお、この説明は現在の病状から予測される範囲のものです。  
※病状等に変化がございましたら、その都度ご説明をさせていただきます。ご不明の点がございましたらお申し出ください。